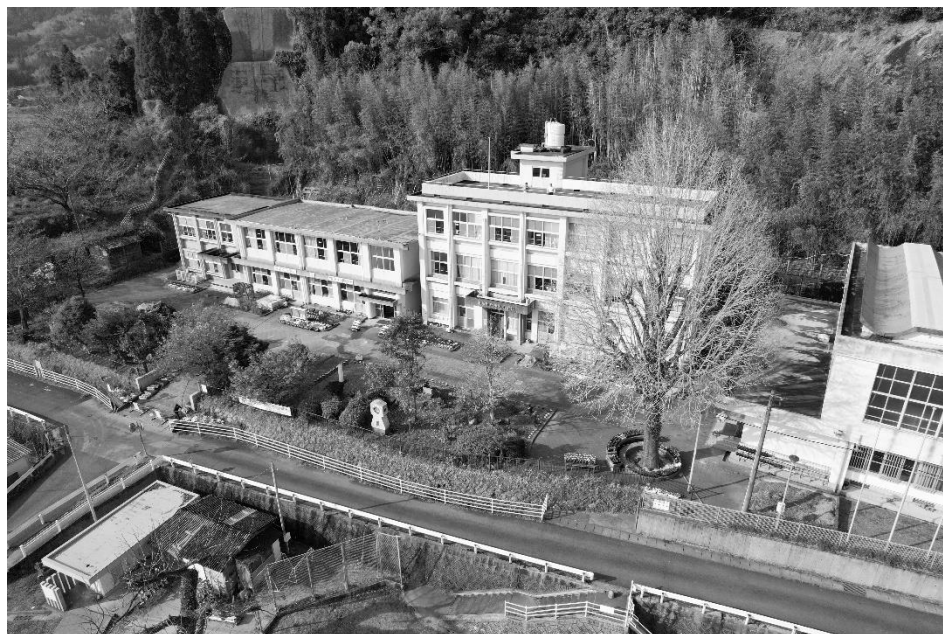


令和 6・7 年度 始良・伊佐地区 研究協力校（授業研究研修）
令和 7 年度 始良地区へき地・小規模校教育連盟研究会

学習指導案



1 検証（参観）のポイント ……………P1

2 学習指導案

学年	教科	単元名	指導者	会場	ページ
2 年	算数科	九九のきまりを見つけていかそう	教諭 瀬戸山 智	2 年教室	P2～4
3・4 年	算数科	はしたの大きさの表し方やしくみを調べよう	教諭 上村 洋美	3・4 年教室	P5～8
		小数の表し方やしくみを調べよう			

3 参考資料 ……………P9～12

令和 7 年 11 月 13 日（木）

霧島市立小浜小学校

《研究主題》

仮説検証的な授業づくりによる授業改善の実現

～児童が「楽しい」と思える算数科の授業づくり～

検証（参観）のポイント〔手立て〕

2 年	時間的要素	① 一人調べに十分な時間を設定することで、自力解決の時間と個別支援を行う時間を確保する。 ② 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。
	ファシリテーター的要素	既習の工夫の仕方（分ける・ひく・まとめるなど）を具体的に示すことで、かけ算九九を使って解く見通しをもち、課題解決の方法を選択・決定できるようにする。
	協働的な学びの要素	① 友達の考えとの類似点や相違点を比較し、考えを共有することで、問題解決のための多様な方法に気付くことができるようにする。 ② 定着の時間にガイドが中心となって全員で問題の解き方を考える場を設定することで、学習したことを使って協働して問題を解決することの楽しさを味わえるようにする。

検証（参観）のポイント〔手立て〕

3 年	時間的要素	① 自力解決する時間を確保することで、前時の学習をもとに1dLより少ない水のかさの表し方に気付くことができるようにする。 ② 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。
	ファシリテーター的要素	一人で解決する、友達にヒントをもらう、ヒントカードを使う、先生に聞くなどの中から選択・決定する場を設定することで、主体的に課題を解決する意欲を高める。
	協働的な学びの要素	① これは何dLか問い、分からないことを出させて話し合わせることで、前時との違いを比較しながら学習問題を立てることができるようにする。 ② ガイド学習で、友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探すことで、対話を通じて学習内容への理解を深める。

検証（参観）のポイント〔手立て〕

4 年	時間的要素	① 自力解決する時間を確保することで、既習事項をもとに0.1Lより少ない水のかさの表し方について気付くことができるようにする。 ② 定着の時間を確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。
	ファシリテーター的要素	一人で解決する、友達にヒントをもらう、ヒントカードを使う、先生に聞くなどの中から選択・決定する場を設定することで、主体的に課題を解決する意欲を高める。
	協働的な学びの要素	① これは何Lか問い、分からないことを出させて話し合わせることで、既習事項との違いを比較しながら学習問題を立てることができるようにする。 ② ガイド学習で、友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探すことで、対話を通じて学習内容への理解を深める。

第2学年学習指導案【小浜小校内研修様式】

1 単元 かけ算(3) 九九のきまりを見つけていかそう	
2 単元の目標	
(1) 乗法のきまりから乗法九九を構成し、被乗数・乗数・積の関係や交換法則を理解することができる。 (2) 九九表から乗法についての性質を見いだしたり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えたりすることができる。 (3) 身の回りの事象から乗法で表される場面に進んで関わり、数理的な処理や乗法のよさに気づき生活や学習に活用しようとする。	
3 単元計画（時間ごとのめあて）	
第1時	かけ算九九のひょうから、どんなきまりが見つけられるだろうか。
第2時	かけ算九九のひょうから見つけたきまりは、ほかのだんでもつかえるのだろうか
第3時	かける数が9より大きいときの答えは、どうやってもとめたらよいのだろうか。
第4時	どことなくふうをすれば、九九をつかって、もとめられるだろうか。（本時）
第5時	同じ4ばいでも長さがちがうのは、なぜだろうか。
第6時	学んだことを生かしていろいろなもんだいにちょうせんしよう。
4 本時の目標（4／6）	
乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫することができる。	
本時のノート 	
主な学習活動 導入⑧ (1) 学習課題をつかむ。 (2) 学習問題を立てる。 (3) 問題解決に向けた見通しをもつ。【ファ】 ・ 算数の「考え方のモンスター」を活用して、「くふう」の方法を具体化する。 展開② (4) 自分が選んだ求め方で問題をとく。【時-①】 ・ 6×6の図を使い、自分の考えや、式や答えをまとめる。（ノート→ロイロノート） (5) 自分の考えや求め方を説明する。 (6) 導き出した考えや求め方を全体で共有する。【協-①】 終末⑮ (7) 「めあて」や「よそう」をもとに、学習のまとめを考える。 (8) 練習問題(別紙)を解く。【時-②】 ・ 最初の1問はガイドが中心となって進め、全員で問題のとき方を考え合う。【協-②】 (9) 学習を振り返る。（発表→ルーブリック） 検証（参観）のポイント〔手立て〕 1 時間的要素 ① 一人調べに十分な時間を設定することで、自力解決の時間と個別支援を行う時間を確保する。 ② 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。 2 ファシリテーター的要素 既習の工夫の仕方（分ける・ひく・まとめるなど）を具体的に示すことで、かけ算九九を使って解く見通しをもち、課題解決の方法を選択・決定できるようにする。 3 協働的な学びの要素 ① 友達の考えとの類似点や相違点を比較し、考えを共有することで、問題解決のための多様な方法に気付くことができるようにする。 ② 定着の時間にガイドが中心となって全員で問題の解き方を考える場を設定することで、学習したことを使って協働して問題を解決することの楽しさを味わえるようにする。	

第2学年算数科学習指導案

2年生 5人
指導者 瀬戸山 智

1 単元 かけ算(3) 九九のきまりを見つけていかそう

2 単元の目標

- (1) 乗法のきまりから乗法九九を構成し、被乗数・乗数・積の関係や交換法則を理解することができる。
- (2) 九九表から乗法についての性質を見いだしたり、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えたりすることができる。
- (3) 身の回りの事象から乗法で表される場面に進んで関わり、数理的な処理や乗法のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。

3 児童の実態

① 算数の授業はよく分かる。＜研究との関連＞

・とてもそう思う…2人 ・そう思う…1人 ・あまりそう思わない…2人 ・そう思わない…0人

② 自分から進んで算数の学習に取り組んでいる。＜研究との関連＞

・とてもそう思う…3人 ・そう思う…1人 ・あまりそう思わない…0人 ・そう思わない…1人

③ かけ算に関する内容 (本時に関連するレディネステストの結果等)

・ 立式に関する問題 達成率 100% ・ かけ算の文章題 達成率 72.5%

③の達成率は比較的高いのに関し、①「算数の授業がよく分かる」について「とてもそう思う」以外の回答は半数以上だった。これは、問題は解けているものの、自分が理解しているかどうか自信がもてていないからだと考える。また②の「自分から進んで算数の学習に取り組んでいる」は「とてもそう思う」という回答は多いものの、「そう思わない」と回答した児童もいた。これは、一人調べの場面でどのように学んでいるのか分からなかったり、協働して学ぶ場面において自分の考えや思いを表出することが苦手だったりする児童がいることが要因だと考える。

4 指導上の留意点

「授業を受けて楽しい」と感じる児童の割合を増やすために、指導において次の点に留意する。

(1) 「授業がよく分かる」と感じる児童を70%以上にするための留意点

ア 一人調べの時に、相手に分かりやすく伝えるための準備の時間を十分に確保することで、自身の課題解決の方法をしっかりと確かめる。【時-①】

イ 友達の考えとの共通点や相違点を確認し、共有する場を設定することで、算数科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く理解できるようにする。【協-①】

ウ 既習事項を生かしながら、多様な問題に取り組む時間を十分に確保することで、学習した事柄への知識・理解を深め、学びへの達成感が感じられるようにする。【時-②】

(2) 「自分から進んで学習に取り組んでいる」と感じる児童を50%以上にするための留意点

ア 今までの学習でも使ってきた「考え方のモンスター」を使いながら課題解決の方法を選択・決定することで、自分から学習に進んで取り組もうとする意欲を高める。【ファ】

イ 既習事項を生かしながら友だちと一緒に学習内容を確認する時間を設定することで、自分たちが見つけた課題解決の方法を再確認し、自身の学習の成果を味わう。【協-①】

ウ 既習事項を生かしながら、多様な問題を解けるようになったことを確かめることで、自身の学習の成果を味わう。【時-②】

5 単元計画

時	各時間における児童のめあて
1	かけ算九九のひょうから、どんなきまりが見つけられるだろうか。
2	かけ算九九のひょうから見つけたきまりは、ほかのだんでもつかえるのだろうか
3	かける数が9より大きいときの答えは、どうやってもとめたらよいのだろうか。
4	どことなくふうをすれば、九九をつかって、もとめられるだろうか。(本時)
5	同じ4ばいでも長さがちがうのは、なぜだろうか。
6	学んだことを生かしていろいろなもんだいにちょうせんしよう

6 本時（4/6）

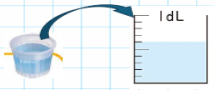
(1) 目 標

乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫することができる。

(2) 実 際

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点（※評価）
導入	1 学習課題をつかむ。 チョコレートは、ぜんぶで何こありますか。 〔よそう〕 ・ 36 こよりちょっと少ない。 ・ 30 こくらい。	8	○ 1つずつ数えるのではなく、かけ算を使って数えるよさに気付くために、前時の学習を振り返る場を設定する。 ○ 既習の工夫の仕方（分ける・ひく・まとめるなど）を具体的に示すことで、かけ算九九を使って解く見通しをもち、課題解決の方法を選択・決定できるようにする。【 フア 】
	2 学習問題を立てる。 どんな工夫をすれば、九九をつかってもとめられるだろうか。		
	3 問題解決に向けた見通しをもつ。 ・ ワッケルの考え方がいい。 ・ カエカエでできそう。 ・ ヒクゾウでもいいね。		○ かけ算の工夫の方法を具体化させるために、「考え方のモンスター」を選ぶ場を設定する。【 フア 】
展開	4 自分が選んだ求め方で問題を解く。 ・ ワッケルで解く。 ・ カエカエで解く。 ・ ヒクゾウで解く。	10	○ 一人調べに十分な時間を設定することで、自力解決の時間と個別支援を行う時間を確保する。【 時-① 】
	5 自分の考えや求め方を説明する。	12	※ 自分の考えを整理し、相手に伝えることを意識して、式や図にまとめることができたか。【 ノート 】
	6 導き出した考えや求め方を全体で共有する。 ・ 分けて足す方法は2種類あるね。 ・ ○○さんと△△さんは、引き算を使っているね。 ・ （図を使って）三個ひっこせば、かけ算九九で簡単に計算できるね。 ・ 分け方も2種類あるね。		○ 友達の考えとの類似点や相違点を比較し、考えを共有することで、問題解決のための多様な方法に気付くことができるようにする。【 図-① 】 ※ 式から図を、図から式を読解し、答えの求め方の工夫を説明することができたか。【 ロイロノート、発言 】
終末	7 「めあて」や「よそう」をもとに、学習のまとめを考える。 わけたり、ひっこしたり、ひいたりする工夫をすれば、九九を使ってもとめられる。	3	
	8 練習問題(別紙)を解く。 (1) ガイドが中心になって解き方を考える。 ・ ワッケルだとこんな考え方だね。 ・ カエカエだとこんな考え方だね。 ・ ヒクゾウだとどうなるかな。	10	○ 定着の時間にガイドが中心となって全員で問題のとき方を考える場を設定することで、学習したことを使って協働して問題を解決することの楽しさを味わえるようにする。【 図-② 】
	(2) 様々な問題に挑戦する。		○ 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。【 時-② 】 ※ 乗法のきまりを使って、多様な問題を解くことができたか。【 ノート 】
	9 学習を振り返る。 (1) 発表する。 ・ いろいろな解き方があったけど答えが一緒に面白かった。 ・ 予想した考えがみんなとたしかめられたのでよかった。 (2) ルーブリックで自己評価する。	2	○ 学習を振り返り、今日分かったことや楽しかったことを言語化して伝えることで、学ぶことの楽しさを味わう。 ○ 学びを振り返り、自己評価を行うことで、次の学びへの意欲を高める。

第3学年学習指導案【小浜小校内研修様式】

1 単元 小数 はしたの大きさの表し方やしくみを調べよう	
2 単元の目標	
(1) 小数の構成や大きさなどについての豊かな感覚をもち、 $1/10$ の位までの小数の加法、減法の計算ができる。 (2) 小数の表し方や計算の仕方を、整数の表し方や計算の仕方をもとに考えることができる。 (3) 小数の仕組みに関心をもち、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に小数を活用しようとするができる。	
3 単元計画(時間ごとのめあて)	
第1時	はしたのある水のかさを数で表すには、どうすればよいだろうか。
第2時	1dL よりも少ない水のかさは、どう表せばよいだろうか。(本時)
第3時	1L まではかった水のかさは、どう表せばよいだろうか。
第4時	小数は、どんなしくみになっているのだろうか。
第5時	2.4dL は、0.1dL のいくつ分だろうか。
第6時	小数の大きさは、どうくらべたらよいだろうか。
第7時	小数のたし算は、どうすればよいだろうか。
第8時	小数のたし算の筆算は、どうすればよいだろうか。
第9時	小数のひき算は、どうすればよいだろうか。
第10時	小数の学習の力だめしをしよう。
4 本時の目標(2/10)	
小数の表し方を知り、小数点の意味を理解することができる。	
本時のノート 小数 ② プリンカップに入っている水のかさは、何dL といえますか。  1dL より少ない水のかさは、どう表せばよいだろうか。 ヒントカードを使う場合は、図をはる。 説明 1dL ますの数が0で、小さい目もり6こ分だから、()dL と書き、()と読みます。 ① () dL 2.6、0.6、0.1などの数を()とい い、「.」を()といいます。 また、0.1、.6、230などの数を() といいます。 1dL を10等分した1つ分は、 0.1dL と表す。その何こ分かで 表すことができる。 ② ① () dL ② () dL	
主な学習活動 検証(参観)のポイント【手立て】	
導入⑧	(1) 学習課題をつかむ。 (2) 学習問題を立てる。【協-①】 ・1dL に満たない水のかさをどう表したらよいかという問いをもつ。 (3) 問題解決に向けた見通しをもつ。
展開⑫	(4) 1dL に満たないかさの表し方を考える。【時-①】【ファ】 ・自分が選んだ方法で問題を考える。 (5) 自分の表し方とその理由について話し合う。【協-②】 ・友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探す。
終末⑫	(6) 学習のまとめをする。 (7) 練習問題に取り組む。【時-②】 ・教科書の練習問題やナビマに取り組む。 (8) 学習の振り返りを行う。
1 時間的要素 ① 自力解決する時間を確保することで、前時の学習をもとに1dL より少ない水のかさの表し方に気付くことができるようにする。 ② 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。 2 ファシリテーター的要素 一人で解決する、友達にヒントをもらう、ヒントカードを使う、先生に聞くなどの中から選択・決定する場を設定することで、主体的に課題を解決する意欲を高める。 3 協働的な学びの要素 ① これは何dL か問い、分からないことを出させて話し合わせることで、前時との違いを比較しながら学習問題を立てることができるようにする。 ② ガイド学習で、友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探すことで、対話を通じて学習内容への理解を深める。	

第4学年学習指導案【小浜小校内研修様式】

1 単元 小数 小数の表し方やしくみを調べよう

2 単元の目標

- (1) 小数の仕組みや、加法や減法の計算の仕方を理解することができる。
- (2) 十進位取り記数法の原理のもとに、端数部分の表し方や計算の仕方を考えることができる。
- (3) 小数の仕組みに関心をもち、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとすることができる。

3 単元計画(時間ごとのめあて)

第1時	0.1Lより少ないのは、どう表せばよいだろうか。(本時)	第6時	小数を10倍したり、1/10にしたりすると、どんな数になるだろうか。
第2時	長さの単位でののは、どう表せばよいだろうか。	第7時	小数のたし算は、どうすればよいだろうか。
第3時	0.01Lより小さいのは、どう表せばよいだろうか。	第8時	小数のひき算は、どうすればよいだろうか。
第4時	小数のしくみは、どうなっているのだろうか。	第9時	小数のたし算でも、計算のきまりが使えるだろうか。
第5時	小数の大きさは、どうくらべたらよいだろうか。	第10時	小数の学習の力だめしをしよう。

4 本時の目標

かさについて、小数第二位までの表し方を理解し、その読み方や書き方をすることができる。

本時のノート

主な学習活動		検証(参観)のポイント〔手立て〕
導入 ⑩	(1) 学習課題をつかむ。 (2) 学習問題を立てる。【協-①】 ・0.1Lに満たない水のかさをどう表したらよいかという問いをもつ。 (3) 問題解決に向けた見通しをもつ。	1 時間的要素 ① 自力解決する時間を確保することで、既習事項をもとに0.1Lより少ない水のかさの表し方について気付くことができるようにする。 ② 定着の時間を確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。 2 ファシリテーター的要素 一人で解決する、友達にヒントをもらう、ヒントカードを使う、先生に聞くなどの中から選択・決定する場を設定することで、主体的に課題を解決する意欲を高める。 3 協働的な学びの要素 ① これは何Lか問い、分からないことを出させて話し合わせることで、既習事項との違いを比較しながら学習問題を立てることができるようにする。 ② ガイド学習で、友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探すことで、対話を通じて学習内容への理解を深める。
	展開 ⑬	
	終末 ⑫	

第3・4学年算数科学習指導案

3年生6人 4年生6人
指導者 上村 洋美

1 単元

(第3学年)

(第4学年)

はしたの大きさの表し方やしくみを調べよう

小数の表し方やしくみを調べよう

2 単元の見通し

- | | |
|--|---|
| <p>(1) 小数の構成や大きさなどについての豊かな感覚をもち、1/10の位までの小数の加法・減法の計算ができる。</p> <p>(2) 小数の表し方や計算の仕方を、整数の表し方や計算の仕方をもとに考えることができる。</p> <p>(3) 小数の仕組みに関心をもち、数理的な処理のよさに気付き、今後の生活や学習に小数を活用しようとする事ができる。</p> | <p>(1) 小数の仕組みや、加法や減法の計算の仕方を理解することができる。</p> <p>(2) 十進位取り記数法の原理をもとに、端数部分の表し方や計算の仕方を考えることができる。</p> <p>(3) 小数の仕組みに関心をもち、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとする事ができる。</p> |
|--|---|

3 児童の実態

① 算数の授業はよく分かる。＜研究との関連＞	
・とてもそう思う…2人 ・そう思う…3人 ・あまりそう思わない…1人 ・そう思わない…0人	・とてもそう思う…0人 ・そう思う…3人 ・あまりそう思わない…0人 ・そう思わない…1人
② 算数の授業に自分から進んで学習に取り組んでいる。＜研究との関連＞	
・とてもそう思う…3人 ・そう思う…2人 ・あまりそう思わない…1人 ・そう思わない…0人	・とてもそう思う…1人 ・そう思う…1人 ・あまりそう思わない…2人 ・そう思わない…0人
③ ＜単元内容について＞	
・水のかさ…達成率42% ・単位換算…達成率53% ・数の見方…達成率67% ・数直線…達成率42%	・整数の構成…達成率38% ・小数の構成…達成率40% ・小数の加減…達成率63%

①②の結果を比較すると肯定的評価の数は同じだが②の方が強肯定評価が高い結果となっている。③の達成率は平均50%程度となっている。以上のことから、学習活動には意欲的に取り組み、「分かった」という感覚をもっているが、その理解が持続的な学力の定着にはつながっていない可能性があることが考えられる。

①②の結果を見ると強肯定評価「とてもそう思う」が少ない結果となっている。③の達成率も50%を切っている。以上のことから、基礎学力の定着が不十分な児童は、既習事項を活用して新しい内容を学ぶという算数科の学習の進め方に対して、戸惑いや不安を感じていることが考えられる。

4 指導上の留意点

「授業を受けて楽しい」と感じる児童の割合を増やすために、指導において次の点に留意する。

(1) 「授業がよく分かる」と感じる児童を70%以上にするための留意点

- | | |
|---|--|
| <p>ア 自分のペースで考えたり、学びを整理したりする時間を十分に確保することで、小数の表し方や計算の仕方が整数と同じであることに気付くことができるようにする。【時①】</p> <p>イ 自分の考えとの共通点を確認しながら共有する場を設定することで、算数科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く理解できるようにする。【図②】</p> <p>ウ 既習事項を生かしながら、多様な問題に取り組む時間を十分に確保することで、学習内容への知識・理解を深め、学びへの達成感が感じられるようにする。【時②】</p> | <p>ア 自分のペースで考えたり学びを整理したりする時間を十分に確保することで、小数も整数と同じように十進数であることに気付くことができるようにする。【時①】</p> <p>イ 自分の考えとの共通点を確認しながら共有する場を設定することで、算数科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く理解できるようにする。【図②】</p> <p>ウ 既習事項を生かしながら、多様な問題に取り組む時間を十分に確保することで、学習内容への知識・理解を深め、学びへの達成感が感じられるようにする。【時②】</p> |
|---|--|

(2) 「自分から進んで学習に取り組んでいる」と感じる児童を50%以上にするための留意点

- | | |
|---|---|
| <p>ア 分からないことを尋ね、悩みを共有する場を設定することで、児童の疑問に添った学習問題を立てることができるようにする。【図①】</p> <p>イ 多様な選択肢の中から課題解決の方法を選択・決定する場を設定することで、自分から進んで学習に取り組もうとする意欲を高める。【ア】</p> | <p>ア 分からないことを尋ね、悩みを共有する場を設定することで、児童の疑問に添った学習問題を立てることができるようにする。【図①】</p> <p>イ 多様な選択肢の中から課題解決の方法を選択・決定する場を設定することで、自分から進んで学習に取り組もうとする意欲を高める。【ア】</p> |
|---|---|

5 単元計画（第3学年：10時間、第4学年：10時間）

各時間における子供のめあて	
1 はしたのある水のかさを数で表すには、どうすればよいだろうか。	1 0.1Lより少ないはしたは、どう表せばよいだろうか。(本時)
2 1dLよりも少ない水のかさは、どう表せばよいだろうか。(本時)	2 長さの単位でのはしたは、どう表せばよいだろうか。
3 1Lまではなかった水のかさは、どう表せばよいだろうか。	3 0.01Lより小さいはしたは、どう表せばよいだろうか。
4 小数は、どんなしくみになっているのだろうか。	4 小数のしくみは、どうなっているのだろうか。
5 2.4dLは、0.1dLのいくつ分だろうか。	5 小数の大きさは、どうくらべたらよいだろうか。
6 小数の大きさは、どうくらべたらよいだろうか。	6 小数を10倍したり、1/10にしたりすると、どんな数になるだろうか。
7 小数のたし算は、どうすればよいだろうか。	7 小数のたし算は、どうすればよいだろうか。
8 小数のたし算の筆算は、どうすればよいだろうか。	8 小数のひき算は、どうすればよいだろうか。
9 小数のひき算は、どうすればよいだろうか。	9 小数のたし算でも、計算のきまりが使えるだろうか。
10 小数の学習の力だめしをしよう。	10 小数の学習の力だめしをしよう。

6 本時（第3学年：2/10、第4学年：1/10）

(1) 目 標

小数の表し方を知り、小数点の意味を理解することができる。

かさについて、小数第二位までの表し方を理解し、その読み方や書き方を知ることができる。

(2) 実 際

指導上の留意点(※評価)	主な学習活動	位置 (時間)	過程	指導上の留意点(※評価)
○ 図を用いて提示することで、学習課題を捉えやすくする。 ○ 図だけでは分からないことを尋ね、悩みを共有する場を設定することで、学習課題を焦点化する。 ○ これは何dLか問い、分からないことを出させて話し合わせることで、学習課題を立てることができる。【協-①】	1 学習課題をつかむ プリンカップに入っている水のかさは、何dLといえますか。 ・ はしたしかないよ。 ・ 1dLが0をどう表せばいいのかな。 2 学習課題を立てる。 1dLより少ない水のかさはどうあらわせばよいだろうか。 3 問題解決に向けた見通しをもつ。	8	導 入	○ 自信をもって取り組める100マス計算をすることで、学習に臨む姿勢を高める。 ○ 図を用いて提示することで、学習課題を捉えやすくする。 ○ 図だけでは分からないことを尋ね、悩みを共有する場を設定することで、学習課題を焦点化する。 ○ これは何dLか問い、分からないことを出させて話し合わせることで、学習課題を立てることができる。【協-①】
○ 自力解決する時間を確保すること	4 1dLより少ない水のかさの表し方を考える。 ・ 昨日習ったのは1dLの表し方が使える。 ・ 図に表してみよう。 ・ 10等分してみよう。 5 自分の表し方とその理由について話し合う。 ・ ワークシートを10等分したいくつ分で表したよ。 ・ 1dLないから一の位を0にして0.6としたよ。	12	展 開	○ 自力解決する時間を確保すること ○ 10等分の表し方に気付くことができるようにする。【時-①】 ○ 一人で解決する、友達にヒントをもらう、ヒントカードを使う、先生に聞くなどのの中から選択・決定する場を設定することで、主体的に課題を解決する意欲を高める。【ア-①】 ○ ガイド学習で、友達の考えと自分の考えを比べながら、似ているところを探すことで、対話を通じて学習内容への理解を深める。【協-②】 ※ 1を10等分したうちのいくつ分で表せることに気付くことができたか。
※ 純小数の読み方と表し方を理解できたか。 ○ 定着の時間を十分に確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。【時-②】 ○ 学びを振り返り、自己評価を行うことで、次の学びへの意欲を高める。	6 学習のまとめをする。 1dLを10等分した1つ分は、0.1dLと表す。その何十分かで表すことができる。 7 練習問題に取り組む。 8 学習の振り返りを行う。	3	終 末	※ 0.1Lを10等分した1つ分のかさが0.01Lであることを理解できたか。 ○ 定着の時間を確保することで、学習したことを使って様々な問題を解決する達成感を感じられるようにする。【時-②】 ○ 学びを振り返り、自己評価を行うことで、次の学びへの意欲を高める。

参考資料【児童用 ルーブリック】

「じぶんでまなぼう！」ルーブリック（1・2ねん）なまえ（ ）

		やったね！	すごい！	ちょうすごい！！
めあてや まなび かた	めあて	せんせいから だしてもらった	せんせいと かんがえた	じぶんたちで きめた
	まなび かた	せんせいから だしてもらった	せんせいと かんがえた	じぶんたちで きめた
しらべるとき		じぶんのかんがえ がもてた	じぶんのかんが えがいえた	みんなのかんがえ をきけた。
すすんで がくしゅうした		すこしできた	まあまあできた	よくできた
きょうの がくしゅう		すこしわかった	わかった	よくわかった
どんなことが わかったかな				

「じぶんでまなぼう！」ルーブリック（3・4ねん）なまえ（ ）

		グッド	ベリーグッド	チョベリグ
めあてと 学びかた	めあて	先生と考えた	自分たちが言った めあてがきまった	自分たちで めあてをきめた
	学びかた	先生から出された 中からきめた	先生と出し合った 中からきめた	自分たちで出し合っ た中からきめた
調べるとき		友だちの考えを 聞いてみた	友だちと調べた	考えのちがう人と 話し合った
自分たちで 活動した		少しできた (10分以上)	できた (20分以上)	長くできた (30分以上)
今日の学習		少しわかった	わかった	よくわかった
どんなことが わかったか				

「じぶんでまなぼう！」ルーブリック（5・6ねん）なまえ（ ）

		梅	竹	松
めあてと 学びかた	めあて	自分たちが言った めあてが決まった	自分たちで めあてを決めた	自分で めあてを決めた
	学びかた	先生から出された 中から決めた	先生と出し合った 中から決めた	自分たちで出し合っ た中から決めた
調べるとき		友達と話し合った	解決することをいろ いろな人と調べた	何を解決するのかをよく理 解していて、いろいろな人 と調べた
自分たちで 活動した		少しできた (10分以上)	できた (20分以上)	長くできた (30分以上)
今日の学習		少し分かった	分かった	よく分かった
どんなことが 分かったか				

参考資料【指導者用ルーブリック】

時間的要素 児童が自発的に学習に取り組んでいる時間の割合を伸ばし、学ぶ楽しさをより感じやすくする。				
尺度 学年	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	備考
低学年	教師は自発的に学習に取り組む時間を 20 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を 10 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を設定する。	自発的な学習の時間とは ○子供自らが考え・選択・決定する時間 ○一人学びの時間 ○ペア・グループ学習の時間
中学年	教師は自発的に学習に取り組む時間を 30 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を 20 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を 10 分以上設定する。	
高学年	教師は自発的に学習に取り組む時間を 30 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を 20 分以上設定する。	教師は自発的に学習に取り組む時間を 10 分以上設定する。	

ファシリテーター的要素 教師が「何を学ばせるか」を明確にし、児童が「どのように学ぶか」を選択・決定する場を増やすことで、学ぶ楽しさをより感じやすくする。				
尺度 学年	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	備考
低学年	教師は導入を工夫し、児童の言葉でめあてを設定し、例示をもとにどのように学ぶかを選択させるようにする。 教師介入度:60% 10+10+20+20	教師は導入を工夫し、児童からめあての言葉を引き出しめあてを設定し、学び方を提示して選択させるようにする。 教師介入度:80% 10+20+30+20=80	教師は導入を工夫し、めあてと学び方を提示する。 教師介入度:100%	【教師介入度】 導入 10% めあて 教師が設定する 30% 子供の言葉を引き出しながら設定する 20% 子供から出てきた言葉をもとに設定する 10% 子供が決める 0% 学び方 教師が全て提示する 30% 教師が例を提示する 20% 子供に考えさせる 10% 子供自らが考える 0% 選択・決定 教師が決める 30% 教師と話し合って決める 20% 子供に選択決定させる 10% 子供自らが選択決定する 0%
中学年	教師は導入を工夫し、児童にめあてを考えさせたり、どのように学ぶかを考え選択させたりする。 教師介入度:30% 10+0+10+10	教師は導入を工夫し、児童の言葉でめあてを設定し、例示をもとにどのように学ぶかを選択させるようにする。 教師介入度:60% 10+10+20+20	教師は導入を工夫し、児童からめあての言葉を引き出しめあてを設定し、学び方を提示して選択させるようにする。 教師介入度:80% 10+20+30+20=80	
高学年	教師は導入を工夫し、児童自らがめあてを決めて、どのように学ぶかを考え選択するようにする。 教師介入度:10% 10+0+0+0	教師は導入を工夫し、児童にめあてを考えさせたり、どのように学ぶかを考え選択させたりする。 教師介入度:30% 10+0+10+10	教師は導入を工夫し、児童の言葉でめあてを設定し、例示をもとにどのように学ぶかを選択させるようにする。 教師介入度:60% 10+10+20+20	

協働的な学びの要素 児童に、自身が解決したい課題を明確にもたせ、他者と協働して課題解決に向かう場を設定することで、学ぶ楽しさをより感じやすくする。				
尺度 学年	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	備考
低学年	教師は、児童に自身が解決したい課題に気付かせ、他者と協力して課題について話し合ったり、考えたりする場を設定する。	教師は、他者と協力して課題について話し合ったり、考えたりする場を設定する。	教師は、他者と話し合ったり、考えたりする場を設定する。	協働とは 立場の異なるものが、一つの目的や目標に向かって、それぞれの特性を生かして、役割分担しながら取り組むこと 協働とは 力を合わせて、努力して事に当てること
中学年	教師は、児童に自身が解決したい課題をもたせ、他者と協働して課題解決に向かう場を設定する。	教師は、児童に自身が解決したい課題に気付かせ、他者と協力して課題について話し合ったり、考えたりする場を設定する。	教師は、他者と協力して課題について話し合ったり、考えたりする場を設定する。	
高学年	教師は、児童に自身が解決したい課題を明確にもたせ、他者と協働して課題解決に向かう場を設定する。	教師は、児童に自身が解決したい課題をもたせ、他者と協働して課題解決に向かう場を設定する。	教師は、児童に自身が解決したい課題に気付かせ、他者と協力して課題について話し合ったり、考えたりする場を設定する。	